

生徒・進路指導論		講義	非常勤講師 音山 若穂
科目カテゴリー	教職科目	科目ナンバリング	25200304

1. 授業のねらい・概要

生徒指導は、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。

進路指導は、生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。

15回の授業のうち、前半は主に「生徒指導提要」の内容の理解、後半は生徒指導上の諸問題の実態の理解と、基本的な対応について解説する。

2. 授業の進め方

講義及び演習。質疑応答の時間を設ける。

3. 授業計画

<p>1. 生徒指導の意義と原理（生徒指導の意義、生徒指導の構造、生徒指導の方法、生徒指導の基盤、生徒指導の取組上の注意点）【生徒指導の意義や原理】</p> <p>2. 生徒指導と教育課程（児童生徒の発達を支える教育課程、教科の指導と生徒指導、道徳・総合の時間における生徒指導、特別活動における生徒指導）【生徒全体への指導】</p> <p>3. チーム学校における生徒指導体制（チーム学校における学校組織、生徒指導体制、危機管理体制、法制度、生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援）【生徒指導の意義や原理】【生徒全体への指導】</p> <p>4. 個別の課題に対する生徒指導① 暴力行為（暴力行為に関する対応指針等、学校の組織体制と計画、重層的支援、関係機関との連携体制）② いじめ（いじめ防止対策推進法、組織と計画、重層的支援、関係機関との連携）【個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導】</p> <p>5. 個別の課題に対する生徒指導③ 不登校・長期欠席・中途退学（関連法と基本指針、未然防止と組織体制、重層的支援、関係機関との連携）【個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導】</p> <p>6. 個別の課題に対する生徒指導④ 少年非行・児童虐待・自殺（基本方針、学校の体制、関係機関との連携など）【個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導】</p>	<p>7. 個別に課題に対する生徒指導⑤ インターネット・携帯電話・性に関わる課題（法律等、基本方針、課題の発見と対応、重層的支援）【個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導】</p> <p>8. 多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導（発達障害についての理解、精神疾患についての理解、健康課題の理解、支援を要する家庭状況）【個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導】</p> <p>9. 進路指導・キャリア教育とは（意義と原理、キャリア教育の代表的な理論）【進路指導・キャリア教育の意義及び理論】</p> <p>10. キャリア教育の指導と実際（指導の在り方、組織的な指導体制、関係機関との連携）【進路指導・キャリア教育の意義及び理論】</p> <p>11. ガイダンスとしての指導①（キャリア・シミュレーションプログラム）【ガイダンスとしての指導】</p> <p>12. ガイダンスとしての指導②（インターンシップと事前事後指導）【ガイダンスとしての指導】</p> <p>13. キャリアカウンセリング①（カウンセリングの手法と実際、ポートフォリオ）【カウンセリングとしての指導】</p> <p>14. カウンセリングとしての指導②（キャリアパスポートと活用仕方）【カウンセリングとしての指導】</p> <p>15. 全体のまとめと振り返り</p>
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、配布資料等を使って復習しておく。さらに、課題についても振り返っておく。なお、これらの準備学修には、2時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業の冒頭で、前週に課した小レポート課題について解説を行う。

6. 授業における学修の到達目標

¹生徒指導、進路指導についての基本的な考え方や指導法、対応法について、初任者レベルの内容を理解し説明できる。

7. 成績評価の方法・基準

毎時間に提出を求めるミニレポート（60％）の提出状況、および期末レポート（40％）の提出状況および内容を合算して評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストとして市販の書籍等は使用しない。（文部科学省サイトに公開されている、生徒指導提要のデジタルテキストを使用する。入手方法は初回講義で解説する）。また、参考文献は講義中に随時解説する。

9. 受講上の留意事項

演習の際は、積極的な参加が求められます。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。